

専業主婦 ▶

サイエンスライター ▶

東京大学工学部広報室特任研究員 ▶

サイエンスコミュニケーター

文系と理系の間の「好き」を貫く仕事へ

内田麻理香 (サイエンスコミュニケーター)

仕事の内容とやりがいについて

社会の中での科学のあり方・関係を考えて、科学の語り部となるべくサイエンスコミュニケーターとして活動しています。個人としての活動の他、母校の工学部の広報担当の研究員として、工学部の研究成果などを発信する仕事に2年半携わりました。仕事をするうち、サイエンスコミュニケーションという分野をより知りたいと思い、現在は大学院の博士課程に社会人入学し、学生として学業・研究をしています。「自分の好きな科学が世の中ではどんな受け取られ方をしているか」を知るために、試行錯誤の毎日ですが、発見や驚きだらけで充実しています。

進路決定のきっかけ

幼い頃から自己流の実験をするなど、もともと科学には興味がありました。理系進学を決めたきっかけの一つは、中学生の頃にアニメを見て、スペースコロニーを作りたいと憧れたことです。得意科目は文系でしたが、無謀にも理系に進学。大学院博士課程まで進みましたが、一貫して「理系としても文系としても中途半端」な自分に悩んでいました。博士課程進学と同時に結婚しましたが、家庭の事情により専業主婦に。その間にウェブサイトを立ち上げ、その内容をまとめた本を出版、サイエンスライターとして活動を始めました。母校から広報担当者としての誘いを受けて就職。思いがけないところから「文系と理系の間」に立ち、「好き」を貫く仕事に出会えました。

仕事と家庭のバランスについて

周囲の人の助けによって成りたっています。仕事・学業に対して全面的に理解し、支援している夫をはじめ、家政婦さん・学童保育所・行政のファミリーサポート・NPOなど多方面にお世話になっています。収入の大部分は家庭運営の維持につき込む勢いですので、働けども働けども……という状態です。一般の感覚でいうと「バランス」はとれていないではないかと思えます。あれもこれもしたいわがままなお母さんを大目に見てくれている子どもたちにも感謝です。

進路選択についてのメッセージ

賢い女性ほど、先のことを考えてしまって「一歩」を踏み出しにくい情報ばかり目に付く状況でしょう。理系に進んだら道が狭まるのではないか、出産したら仕事ができなくなるのではないかなど。私は幸か不幸か頭が悪かったので、あまり考えずに次々と行動を起こしてしまいました。その結果、予想もしなかった大変なことは多く待ちかまえていましたが、それを上回るご褒美も待っていました。人間の頭で考えられることはたかがしれています。自分の心に耳を傾けて「好き」という感情に素直になると、楽しい未来が待っているはずですよ。

<内田麻理香 (うちだまりか) プロフィール>

- 1993年 渋谷教育学園幕張高等学校卒業
- 1997年 東京大学工学部応用化学科卒業
- 1999年 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻修士課程修了
- 1999年 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻博士課程進学。日本学術振興会特別研究員(DC1)。同大学院博士課程中途退学し、専業主婦となり、2児を出産。
- 2005年 処女作「カソウケン(家庭科学総合研究所)へようこそ」を出版、サイエンスライターとして活動を開始。
- 2007年 東京大学工学部/大学院工学系研究科 広報室 特任教員
- 2009年 東京大学工学部/大学院工学系研究科 広報室 特任研究員
- 2009年 東京大学大学院情報学環・学際情報学部 博士課程在籍
- 2011年 フリーランスのサイエンスライター・サイエンスコミュニケーター

